

「神奈川県を受動喫煙防止条例制定秘話」

—スモークフリーをめざす地方の取り組み—

全国禁煙推進地方議員連絡会代表世話人・神奈川県議会議員 関口正俊

1. 40年前の来熊時、初めて乗った飛行機の中はタバコの煙がモンモンとしており、気分が悪くなってトイレに駆け込んだ。そのときのことを思うと、この40年で喫煙環境は大きく変わってきた。
2. 昨日は、JR 熊本駅近くのホテルに宿泊した。JR 熊本駅では、受動喫煙を許容する環境があるため、話しを伺いに駅に行き、助役に案内を依頼した。「これは神奈川であれば条例に違反していますよ」、「JR 東日本は禁煙ですし、仮に喫煙所があったとしてもボックスを作り毎秒0.2m/秒の風を送らないと法律違反ですよ」、と言った。助役の方は全く同感ということであった。「喫煙所は駅の施策ですか」と尋ねたところ、「JR九州からの指示です」ということであった。
3. 神奈川県の受動喫煙防止条例の件。条例の案内パンフレット配布。
神奈川県では条例施行によりたばこ対策室を設置した。本庁と各保健福祉事務所に新たに50人の職員を配置した。今年の4月から、この中から受動喫煙防止対策指導員—私たちは禁煙Gメンと呼んでいる—を任命し取り組みを強化することになっている。
4. 条例では小規模飲食店など、適用除外になっている施設もあるが、将来的には、適応除外をはずし、全面禁煙を目指したい。そのためには、県民世論を盛り上げていく必要がある。禁煙に取り組む様々な団体、個人と協力しながらやっていきたい。
5. 実は、神奈川での活動の第一歩は、学校と病院の禁煙化からであった。まずは県庁、病院そして次は学校と禁煙を広めていった。
6. 学校の禁煙化の前に、先進県である和歌山県の県立高校を視察に行った。その校長先生に敷地内禁煙について尋ねたところ、「案ずるより生むが易し」と、まずは行動をしてみることが大切という話しであった。
7. 社会学的に人の認識は通常100%ということはないが、禁煙に関しては違う。禁煙した人は100%良かったという。喫煙がいかにも人間らしい生活を害しているかの証明である。
8. 神奈川の県立高校を学校建物内禁煙から敷地内全面禁煙にしたところ、学校を使っただけの地域のイベント後での吸殻等がなくなり、近所の方にも喜ばれた。
9. 「言い続けること」が大事である。そのことで世の中が少しずつ変わっていく。
10. 世論がある程度の臨界点に達すると、法律・条令になっていく。マナーからルールへの飛躍だ。
11. 長い目で見ながら、しかし出来るときは一気呵成にやることが大切である。
12. 苦勞のなかにこそ喜びがある。楽しい事ばかりで前に進むと、結局は何も残らない。本当の喜びとか達成感とは苦勞の中にある。禁煙運動は素晴らしい社会運動だ。